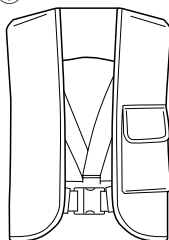
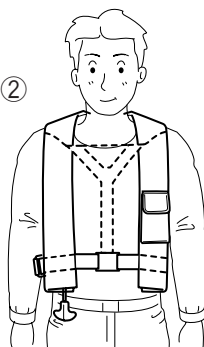
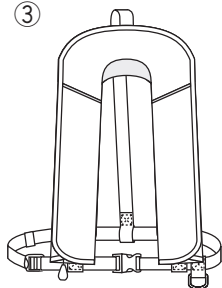
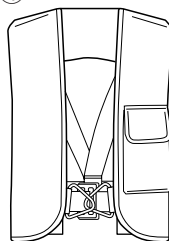
※ご使用の前に必ずお読みください。

膨張式救命胴衣
取扱説明書

① 自動タイプ（型式 YM-005）
② 手動タイプ（型式 YM-003）
③ 手動タイプ（型式 YM-2300）（届出型式TK-2300）
④ ヨッティングタイプ（手動）（型式 YM-006）

①
②
③
④
※販売店様へのお願い

最終ページの保証書に販売日及び御社の社印を捺印後お客様へ商品と当取扱説明書をお渡し願います。

株式会社ワイズギア

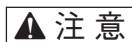
— 目 次 —

※お客さまへ

安全上のご注意

※ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、着用者や他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。
注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や製品の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

本書では正しい取扱いに関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠警告	取扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
⚠注意	取扱いを誤った場合、重傷に至るまたは物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要点	正しい操作の仕方やポイントを示してあります。

⚠警告

取扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。

・手動タイプの膨脹式救命胴衣（YM-003, YM-006, YM-2300）は泳ぎが得意でない人や、泳げない人は着用しないでください。

・膨脹式救命胴衣の使用者は13歳以上でなければなりません。

・膨脹装置を作動させた場合は使用しないでください。
膨脹装置を一度作動させると、炭酸ガスボンベ内のガスが無くなり再使用できません。この場合には、最寄りの販売店を通じて炭酸ガスボンベを購入し、交換してから使用してください。（14〜16ページ参照）

・自動膨脹装置が水に濡れると、スプールが水に溶け再使用できません。
この場合には、最寄りの販売店を通じてボンベキットを購入し、交換してから使用してください。（14〜16ページ参照）

・着用前、着用中は飲酒しないでください。

・突起物、鋭利な物（ブローチ、ボールペン、ネクタイピンなど）は救命胴衣着用前に取り外してください。気室を傷つけ、使用できなくなるおそれがあります。

・膨脹式救命胴衣は着衣の上に正しく着用してください。
着衣の下に着用しますと、膨脹時呼吸が困難になり、着用者が怪我をする恐れがあります。

・膨脹式救命胴衣は、急流、パーソナルウォータークラフト、水上スキー、3人乗り以下用ヨット等、着用者が常に濡れている状態及び高速を伴う活動での使用はしないでください。

⚠ 警 告

・着用する前に、バックルが壊れていないか、腰ベルトが切れていないかを確認してください。落水したとき、救命胴衣が身体から外れる恐れがあります。

・着用する前に膨張装置が装備されていること、完全に充填された炭酸ガスボンベが定位置に取り付けられていることを確認してください。

・膨張式救命胴衣を膨張させた状態で、水中に飛び込まないでください。
救命胴衣が身体から外れる恐れがあります。やむを得ず飛び込む場合は、両手で救命胴衣を抱きかかえるように、しっかりと身体に固定して飛び込むようにしてください。

・水中に浮いている場合、膨張式救命胴衣を損傷する恐れのある浮遊物には近づかないでください。気室を傷つけ、使用できなくなるおそれがあります。

・気室を膨張させた後は、気室内の空気を完全に排気してください。
空気が気室内に残っていると炭酸ガスで膨張した時、気室が破裂する恐れがあります。

・救命胴衣の取り扱い時は火気厳禁にしてください。
気室は、ポリウレタン加工した引布で作られていますので、火気を近づけると穴があき救命胴衣が膨張しないおそれがあります。

・1年に1回、製造会社による点検を実施してください。（10ページ参照）

・救命胴衣は改造しないでください。その場合、国土交通省型式認可品でなくなります。

⚠ 注 意

取扱いを誤った場合、重傷に至るまたは物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

・この膨張式救命胴衣は、救命用ですので、他の用途に使用しないでください。

・着用する前に、気室が膨らんでいないことを確認してください。
膨張式救命胴衣が膨らんでいるときは、ボンベ内のガスが漏れていて、そのまま使用すると救命胴衣が膨張しない恐れがあります。この場合、必ず膨張装置からボンベを外し、ボンベの封板に穴があいていないかを確認してください。（16ページ参照）

・自分のウエストサイズにぴったりするよう、サイドベルトで調整してください。あまったベルトはベルト通しを用いて固定してください。

・0℃以下で使用する場合は、気室の圧力が下がるためエアー吸入補充バルブから空気を入れてください。

・膨張式救命胴衣を単独で運搬移動する場合には、規定された方法（17ページ参照）で折り畳んでください。また、荷物の下に置かないでください。破損、劣化の原因になります。

・保管場所は、高温多湿の場所をさけオイルや、酸剤から遠ざけてください。

・燃料、オイル、溶剤に近づけないでください。

・膨張式救命胴衣は所有者が責任を持ってメンテナンスするようにしてください。
メンテナンスチェックを行った後には23ページの点検整備基準表に署名と日付を記入しておきます。

1. 商品概要

このセクションでは、各部の名称及びコーションラベルの貼り付け位置や内容の詳細を説明してます。

■概要

1. 気室は、ナイロン布にポリウレタン加工した引布で作られ、膨張した気室の浮力は、約10kgfです。（水中で必要浮力は、一般的に陸上体重の1/10と言われています。）
2. 膨張後は海上で発見がしやすいように、気室の色は、黄色となっています。
3. 夜間発見がしやすいように、反射リフレクター（再帰反射布）が取り付けてあります。
4. 救命用のホイッスルが備え付けられています。
5. 浮力低下時には、エアー吸入補充バルブから空気を入れ浮力を回復させることができます。

自動タイプ （YM-005）

この膨張式救命胴衣は、水没するとスプールが水に溶け数秒で自動的に膨張する機能を備えています。
万が一自動的に膨張しない場合は、緊急手動レバーで手動タイプと同様に膨張させることもできます。

手動タイプ （YM-003、YM-006、YM-2300）

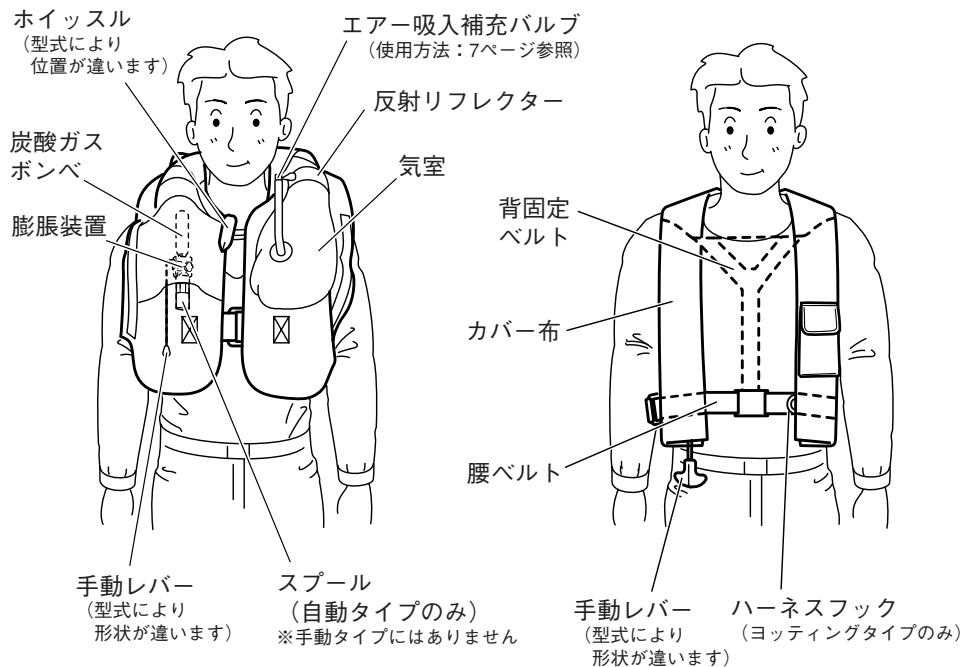
この膨張式救命胴衣は、落水した時に手動レバーを引き膨張させ、水面に浮遊させるものです。
手動タイプの為、泳げない人や泳ぎが得意でない人は、着用しないでください。

※膨張式救命胴衣は、膨張させないと浮揚効果がありません。一度使った炭酸ガスボンベは再利用できません。膨張後はその都度、新しい炭酸ガスボンベを膨張式救命胴衣に再装備してください。
本取扱説明書に従って着用、使用およびメンテナンスを行なえば、膨張式救命胴衣は水中における着用者の生存確率を大幅にアップすることができます。

● 各部の名称

救命胴衣の各部の名称を示します。

■膨張装置と作動方法

要　点

膨張式の救命胴衣は、ボンベ中の炭酸ガスが気室に膨張することで、すべてのモデルで約10kgfの浮力が得られる様になっています。
10kgfとは、大部分の人が顔を上に向けて息が出来る浮力です。
ただし炭酸ガスに限らず、気体は、温度により容積が大きく変化します。
水温が低くなり炭酸ガスの容積が小さくなると、浮力も減り、10%以上減少する場合も考えられます。そのような場合は、エアー吸入補充バルブより空気を送り込んで、十分な浮力を得る様にしてください。

● 自動膨脹装置（YM-005）

この装置は自動膨脹用のスプール、緊急手動レバー及び撃針から構成されています。
この装置は水没するとスプールが溶解し、バネの力で撃芯がボンベの封板を破りボンベ内の炭酸ガスが気室内へ送気される構造となっています。

※次のような場合は、手動で膨脹させてください。

・ 船が沈み始めてから脱出する場合において、飛び込まないで静かに水面に入ることができる場合。

・ 水中に入っても自動的に作動しない場合。

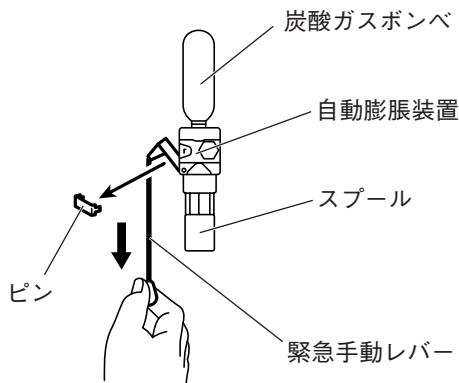
・ 浮遊物につかまったりして自動膨脹装置が水につからない状態の時。

要　点

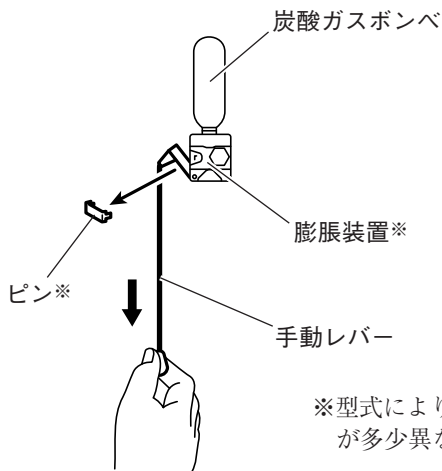
この自動タイプは瞬間的な水没では作動しません。
膨脹するためには自動膨脹装置が約3秒以上水没する必要があります。

作動方法

この救命胴衣は、自動膨脹と、手動膨脹の2つの方法により膨脹させることができます。

水中に落水すると胸部（着用時）に取り付けられてある自動膨脹装置に水が入って作動し、炭酸ガスが気室内に充気されて膨脹します。
万が一落水時に作動しなかった場合は、緊急手動レバーをイラストのように強く引くことで膨脹装置が作動し、気室内に炭酸ガスが送気され気室が膨脹し浮力が得られます。

● 手動膨脹装置（YM-003、YM-006、YM-2300）

この装置は膨脹用の手動レバー及び撃針から構成されています。
この装置は手動レバーに連動している撃芯を押して、ボンベの封板を破りボンベ内の炭酸ガスを気室内へ送気する構造になっています。

作動方法

レバーをイラストのように強く引くことで膨脹装置が作動し、気室内に炭酸ガスが送気され気室が膨脹し浮力が得られます。

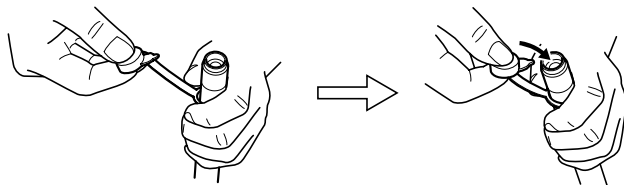
■エアー吸入補充バルブ

この送気装置は、気温・水温の変化により気室の内圧が低下し十分な浮力が得られなくなった時、気室に空気を補充するために使用する物です。
また、空気を気室から排気するときにも使用することができます。

● 空気補充

補充方法は、エアー吸入補充バルブから息を吹き込み空気を補充します。

●空気の排気

気室内の空気を排気する時は、エアー吸入補充バルブキャップの突起部を差し込むと排気できます。

※型式によっては、形状が異なります。

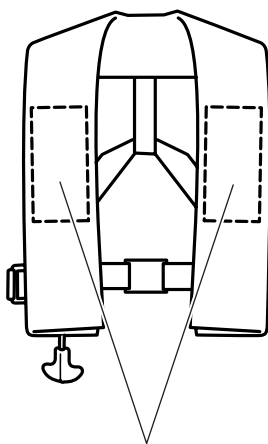
⚠警告

空気を膨張させた後は、気室内の空気を完全に排気してください。
空気が気室内に残っていると炭酸ガスで膨張した時、気室が破裂する恐れがあります。

■呼び笛（ホイッスル）

近くに人や船が見える場合にホイッスルを使い、浮遊場所を伝達する時に使用してください。

■コーションラベル

コーションラベルはジャケット裏に貼り付けられています。コーションラベルには、使う上で注意していただきたいことや、警告が記載されています。

コーションラベル貼り付け位置（裏側）

2. 使用前の準備

このセクションでは、膨張式救命胴衣の使用前点検およびを説明しています。
膨張式救命胴衣を使用する前に必ず一度お読みになって確認してください。

■自主点検

この救命胴衣を安全に使用するためには、その都度必ず次の点について点検し異常がある場合は使用しないでください。

● 点検要領

1）気室及びカバー布に傷がないことを確認してください。

2）縫製部のホツレ及び糸切れがないことを確認してください。

3）手動レバーが緊急時にすぐに引ける状態であるか確認してください。

4）ベルトに傷がないことを確認してください。

5）バックルに傷がないことを確認してください。

6）救命胴衣が折り畳まれた状態で膨らんでいないことを確認してください。

7）膨張装置が装備されていることを確認してください。

8）エアー吸入補充バルブ及び送気管が破裂していないことを確認してください。

9）炭酸ガスボンベの封板に穴があいてないか確認してください。小型のはかりでボンベの重量を測定をして、炭酸ガスボンベ表面に記載されている総重量と実測値を比較します。重量が同じでない場合には使用しないでください。

10）膨張装置の状況を点検し炭酸ガスボンベに漏れがないか確認してください。

11）膨張装置の緑色のコの字型のピンが紛失している場合は、ボンベの封板に穴があいていないか点検が必要です。（16ページ参照）

12）コーションラベルが読める状態か確認してください。

13）手動レバーが織り込み部から少し出ていることを確認してください。

⚠ 警 告

上記1）～13）の異常を発見したときは、使用をやめ、直ちに販売店を通じて次ページ製造会社に連絡の上、点検を受けてください。
装置及び部品の破損等により重大な危険を招く恐れがあります。

要　点

1年に1回の下記製造会社による点検（有料3,000円）を実施してください。
（元払い）で送付し、点検終了後代引き着払いで返送します。

高階救命器具株式会社
〒556-0028　大阪府大阪市浪速区久保吉1丁目1番34号　TEL06-6568-3512㈹

● 確認

航海毎に救命胴衣を備えているか確認してください。また、それぞれの乗員の体にぴったりフィットするよう航海毎にベルトサイズを調整してください。

3. 使用方法

このセクションでは、膨脹式救命胴衣の着用を説明しています。

■着用方法

本書で説明するモデルは全て、ウエスト100cm、体重100kg以下で13歳以上の遊泳者用にフリーサイズで作られています。手動タイプは、泳ぎが得意でない人や泳げない人は着用しないでください。

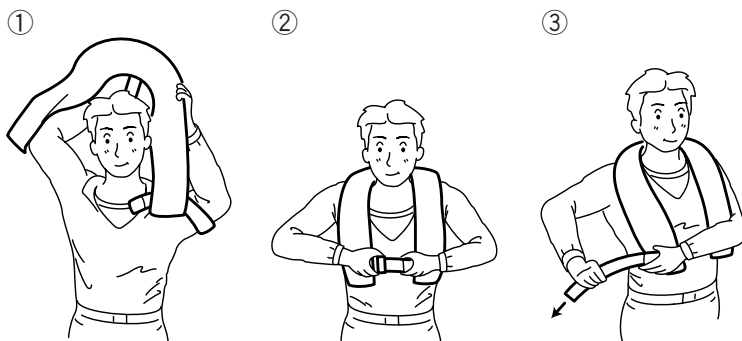
⚠警 告

・突起物、鋭利な物（ブローチ、ボールペン、ネクタイピンなど）は救命胴衣着用前に取り外してください。
気室を傷つけ、使用できなくなるおそれがあります。

・着用する前に膨脹装置が装備されていること、完全に充填された炭酸ガスボンベが定位置に取り付けられていることを確認してください。

① 左右の手をイラストのようにベルトと救命胴衣の間に通してください。背固定ベルトは背中の中央になるようにしてください。

② 腰ベルトのバックルを締めてください。

③ 腰ベルトは、救命胴衣を着用した後、長さの調整ができるようになっており、イラストのようにベルトの端を引っ張ることによって締めることができます。
ベルト末端は、垂れ下がら無いよう末端をベルト通しで固定してください。

4. メンテナンス

このセクションでは、膨張式救命胴衣の性能を維持していくために必要なメンテナンス方法や定期点検・整備に関する情報、さらに炭酸ガスボンベの交換方法を説明しています。
使用した救命胴衣は、次の要領に従い整備を実施してください。

■日常の手入れ

膨張式救命胴衣の性能を維持するためには、日常のお手入れが重要です。特に使用後は必ず手入れを行ってください。

●清掃

1）カバー布の汚れ及び塩分等が付いている場合は、膨張装置に水が入らないように注意して真水で洗い流し、陰干して十分乾燥させてください。

2）軽い汚れが付着した場合は、ガーゼに中性洗剤を浸し、軽く叩くようにして洗浄し、真水を浸したガーゼで洗剤を取り去り、陰干して十分乾燥させてください。

⚠ 注 意

・洗浄の際ガソリン等の溶剤は、使用しないでください。また、直接日光に当てたり、電熱器・熱風で乾燥させないでください。
救命胴衣の劣化、変形の原因となります。

・洗濯機で洗ったりもみ洗いをすると、ウレタン引布に亀裂が入る恐れがありますので避けてください。

・自動タイプの膨張装置に水がかかると膨張装置が作動し膨張する恐れがあります。

● 点検

整備要領

1）炭酸ガスボンベ受け穴の中を見てパッキンを調べます。パッキンが紛失、あるいは破れている場合、またはパッキンの縁部がほつれている場合には交換します。
（製造メーカーでの修理となります。）

2）炭酸ガスボンベの封板と、表面を点検します。表面が滑らかで穴やひっかき傷がないことを確認します。ボンベの不備が少しでも疑われる場合には、小型のはかりでボンベの重量を測定して、炭酸ガスボンベ表面に記載されている総重量と実測値を比較します。重量が同じでない場合には使用しないでください。

3）膨脹装置の状況を点検し漏れがないか確認してください。

4）エアー吸入補充バルブ及び送気管が破裂していないことを確認してください。

5）気室の空気の漏れがないことを確認してください。

要　点

・漏れの点検を行うには、炭酸ガスボンベを取外し、息を吹き込む方式で器具をしっかりと膨脹させ、そのまま一晩放置します。
朝、救命胴衣はしっかり膨脹したままでなければなりません。
この漏れテストは毎年のボーティングシーズンの初めに実施し、その後使用頻度に応じ頻繁に行うようにしてください。
このテストの後完全に空気を抜き、炭酸ガスボンベを取付け、膨脹装置を点検して器具が正しく整っていることを確認した後正しく折り畳んで保管してください。

・メンテナンスチェックを行った後には23ページの点検整備基準表に署名と日付を記入しておきます。

■膨脹後の処理

⚠警告

- 膨脹装置を一度作動させると、炭酸ガスボンベ内のガスが無くなり再使用できません。
- 炭酸ガスボンベは、膨脹装置にしっかりと締め付けてください。
- 炭酸ガスボンベが自動膨脹装置にしっかり締め付けてない場合は、作動しても炭酸ガスが漏れて気室が膨脹しません。

要　点

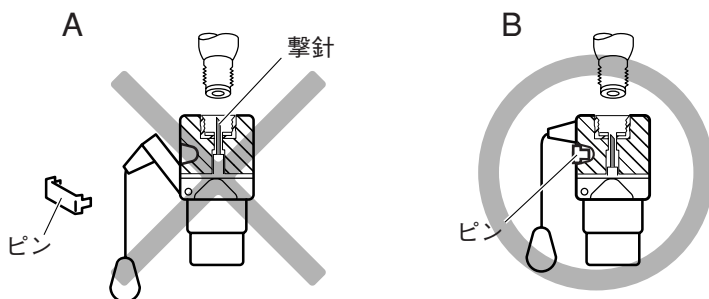
・使用して膨脹させた救命胴衣を再使用する場合は、最寄りの販売店を通じて炭酸ガスボンベキットを購入し、交換してください。

部品番号		
	YM-003	：90790-22063
	YM-005	：90790-22070
	YM-006	：90790-22071
	YM-2300	：QR1-YSK-001-006

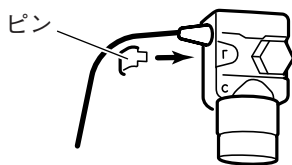
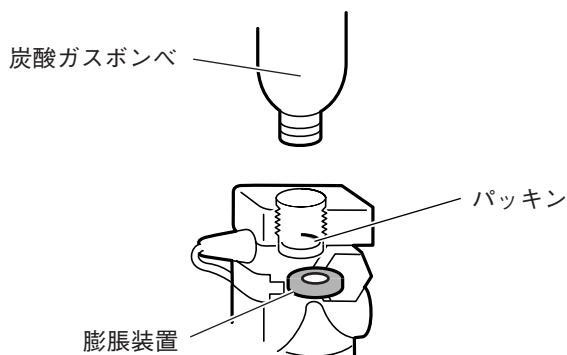
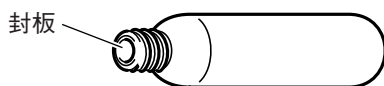
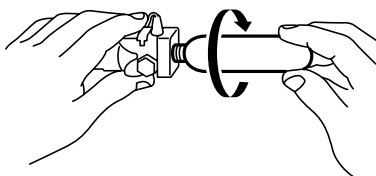
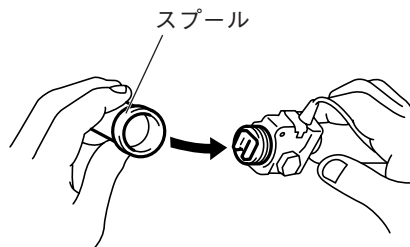
・自動タイプのスプールを交換するときは、膨脹装置のスプール挿入部分を良く乾燥させてください。
スプール挿入部分に水分が残っているとスプールが作動して、膨脹装置が作動します。

●作動後の炭酸ガスボンベ交換方法

1）反時計回りにネジを緩め、使用済みの炭酸ガスボンベを取り外します。
　使用済みボンベを再装備しないよう、直ちに廃却してください。

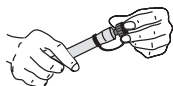
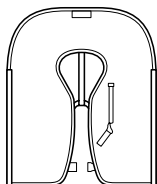
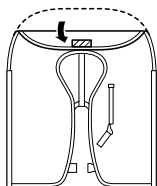
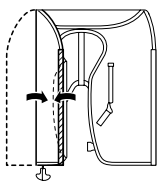
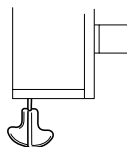
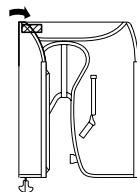
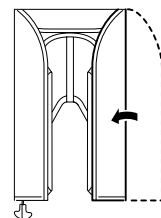
要　点
・Aの状態では新しいボンベを挿入しないこと。挿入するとガスが放出されます。 ・Bの状態でボンベを挿入してください。

※型式により膨脹装置やピンの形状が多少異なります。

2）膨脹装置のレバーを膨脹装置本体の中へ収納し、新しい緑色ピンを慎重に挿入します。

要　点
ピンのツメを片方ずつ挿入してください。同時に挿入するとツメが折れることがあります。

3）炭酸ガスボンベ受け穴の中を見てパッキンを調べます。パッキンが紛失、あるいは破れている場合、またはパッキンの縁部がほつれている場合には製造メーカーでの修理が必要です。

4）新しい炭酸ガスボンベの表面を検査します。表面が滑らかで穴やひっかき傷がないことを確認します。ボンベの不備が少しでも疑われる場合には、小型のはかりでボンベの重量を測定して、炭酸ガスボンベ表面に記載されている総重量と実測値を比較します。重量が同じでない場合には使用しないでください。

5）新しい炭酸ガスボンベを、時計回りにパッキンまで締め込み、さらに1/4回転ねじ込みます。取り付けに異常がないか確認します。

6）自動タイプ（YM-005）の場合、スプールを膨脹装置に取り付けてください。

●気室の折り畳み方法

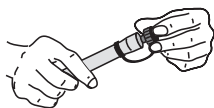
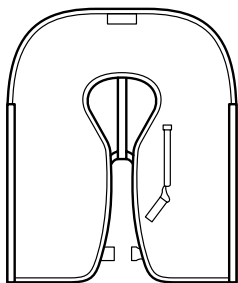
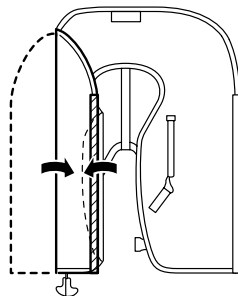
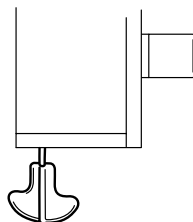
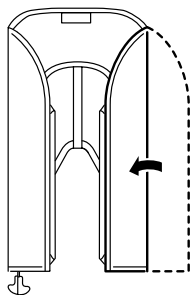
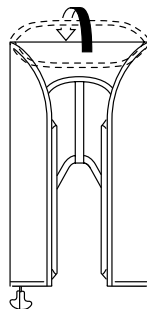
救命胴衣を傷つけず安全に使用していただくために以下の方法により折り畳んでください。

自動タイプ（YM-005）、ヨッティングタイプ（YM-006）

① キャップを逆さまに差込み、気室の空気を抜きます。

② 気室の空気を完全に抜き、救命胴衣をイラストのように平らに広げてください。（この時救命胴衣の下や周辺に傷を付けるような物を置かないように注意してください。）

③ 気室の上部を折り畳み、マジックテープで止めてください。

④ 左気室を折り畳み、マジックテープで止めてください。

⑤ 下部の気室を折り畳む際、手動レバーをイラストのように気室から出すようにして、マジックテープを止めてください。

⑥ 上面ファスナを止めてください。

⑦ 左気室も右気室と同様に折り畳んで収納状態（着用状態）となります。

⚠警告

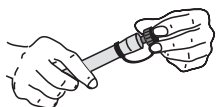
最後にもう一度、手動レバーの紐が外に出ていることを確認してください。手動レバーが出ていないと、落水時に膨脹させることができなくなるおそれがあります。

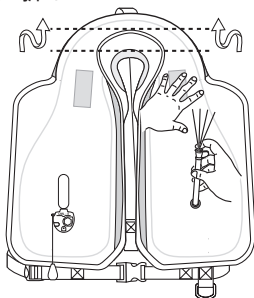
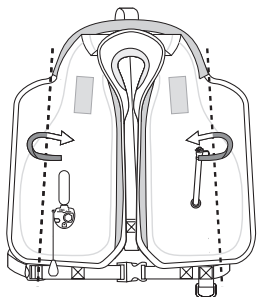
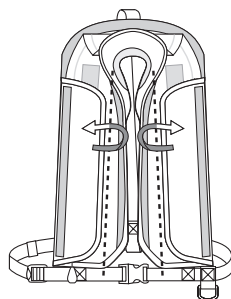
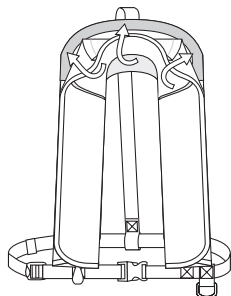
手動タイプ（YM-003）

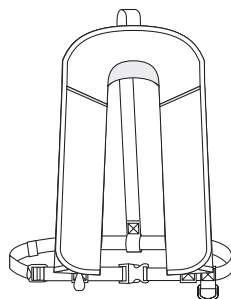
① キャップを逆さまに差込み、気室の空気を抜きます。

② 気室の空気を完全に抜き、救命胴衣をイラストのように平らに広げてください。（この時救命胴衣の下や周辺に傷を付けるような物を置かないように注意してください。）

③ 左気室を折り畳んでください。

④ 手動レバーをイラストのように気室から出すようにしてください。

⑤ 右気室を折り畳んでください。

⑥ 気室の上部を後ろ方向に折り畳んでください。

⚠ 警 告

最後にもう一度、手動レバーの紐が外に出ていることを確認してください。手動レバーが出ていないと、落水時に膨脹させることができなくなるおそれがあります。

手動タイプ（YM-2300）

① キャップを逆さまに差込み、気室の空気を抜きます。

② 手で気室を押さえながら完全に空気を抜きます。気室の上をZ字型に折ります。

③ 左右の外側を上に折ります。

④ 左右の内側を上に折りベルクロを留めます。

⑤ 上部のカバー部分のベルクロを留めます。

⑥ 完了。

▲警 告

最後にもう一度、手動レバーの紐が外に出ていることを確認してください。手動レバーが出ていないと、落水時に膨脹させることができなくなるおそれがあります。

■保管

この製品は、主要部がナイロンとポリウレタン加工した引布でつくられているので、高温多湿あるいは荷重のかかった状態におかれると劣化あるいは破損しやすいため、保管は次の要領で行ってください。

⚠注 意

保管は、高温多湿のところを避けてください。また、他の物の下積みにならないようにしてください。救命胴衣の劣化、破損の原因になります。

●保管方法

1）直射日光の当たる場所を避けてください。

2）換気の良い乾燥した場所においてください。

3）雨漏りのする場所、蒸気の当たる場所は避けてください。

4）蒸気管、ラジエター、その他暖房装置のそばなど高温の場所におかないでください。

5）燃料、オイル、溶剤のある場所は避けてください。

6）他の物の下積みになる場所は避けてください。

7）ネズミの害のある場所は避けてください。

8）長期保管する場合には、ハンガー等に吊下げて保管してください。

9）ガスボンベは、高圧ガス保安法第二章製造一般則12条により常に温度40度以下の場所に保管してください。

⚠注 意

・洗浄の際ガソリン等の溶剤は、使用しないでください。また、直接日光に当てたり、電熱器・熱風で乾燥させないでください。
救命胴衣の劣化、変形の原因となります。

・洗濯機で洗ったりもみ洗いをすると、ウレタン引布に亀裂が入る恐れがありますので避けてください。

・自動タイプの膨脹装置に水がかかると膨脹装置が作動し膨脹する恐れがあります。

■商品買換えの目安

●救命胴衣本体

救命胴衣に以下のような状態が発生した場合は、使用せず、新しい商品に交換してください。

1）救命胴衣気室が破損しているとき。

2）エアー吸入補充バルブ及び送気管が破損しているとき。

3）腰ベルト及びバックルが破損しているとき。

4）カバー布が破れたとき。

5）表面が汚れなどでコーションラベルの表示が見えなくなったとき

6）マジックテープ部の縫製糸がほつれたり、切れたとき。

7）カバー布や腰ベルトの色が著しく退色、変色したとき。

●膨脹装置

炭酸ガスボンベ（およびスプール）は、次のような場合交換してください。

1）救命胴衣を膨脹させたとき。

2）購入後3年を経過したとき。

5. 法令と製品検査

このセクションでは、膨張式救命胴衣の法令に関する情報や、製品検査について記載しています。

■法令の知識

小型船舶に膨張式救命胴衣を法定備品として搭載し受検するには「日本小型船舶検査機構検査事務規程細則」内の第2編「小型船舶の検査の実施方法に関する細則」の内2-2-3項検査の実施“表2-5 救命設備”欄に下記のとおり記されています。

記

「膨張式救命胴衣にあたっては、気室の膨張試験及びガスボンベの検量を行う。但し製造後5年以内の膨張式救命胴衣の気室の膨張試験については、現状良好な場合は省略しても差し支えない」と明記されています。
膨張救命胴衣には商品に製造年月日が記載されております。
たとえば、

1）新艇納入時の第1回定期検査の時は、搭載するライフ・ラフトジャケットが製造後5年以内の商品なら、検査員が外観等を確認判断して膨張試験を省略する事があります。

2）その艇が、次の3年後の中間検査時は、検査員が外観等を確認判断して膨張試験を省略する事があります。

3）その艇が、次の6年後の第2回定期検査は5年以上経過している為、JCIへ検査伺いしていただき指示を仰いでください。その指示により、救命胴衣を送る場合は次ページメーカーへ送付してください。そして、第2回定期検査の時、膨張試験検査書成績表を掲示してください。

4）臨時検査、臨時航行検査等の時も搭載しているライフ・ラフトジャケット製造後5年経過していれば、JCIへ検査伺いしていただき指示を仰いでください。その指示により、救命胴衣を送る場合は次ページメーカーへ送付してください。そして膨張試験検査書成績表を提示してください。

5）定期及び中間検査の途中にライフ・ラフトジャケットを購入した場合、製造年月日を確認して頂き、その定期及び中間検査日が製造後5年以内であるならば、検査員が外観等を確認判断して膨張試験を省略する事があります。

6）航行区域が沿海以上も限定沿海以下の場合も同じです。

■製品検査について

膨脹試験検査書成績表取得の為の送付先は下記の通りです。

高階救命器具株式会社
〒556-0028　大阪府大阪市浪速区久保吉1丁目1番34号　TEL06-6568-3512㈹

- 検査・成績表費用は3,000円（税別）です。
- 元払いで送付し、検査証明書を添付し代引着払いで返送します。
- 発送の際、名前、住所、TEL、返却希望日を必ず記入願います。
- 納期は発送返却日を除き7日間を要します。

※ ボンベ、スプール等を交換する場合は、別途費用がかかります。

■点検整備基準

- 大切な記録簿です。購入した販売店及び総販売店より提出を求められる場合がありますので、大切に保管願います。
- 必ずボールペンで記入してください。

		年						
		月日						
点検整備項目		作業者名						
外観	気室	損傷						
		空気漏れ						
	縫製部	ホツレ・糸切れ						
	ベルト	損傷						
	バックル	損傷・汚れ						
	コーションラベル	汚れ						
膨脹装置	膨脹装置	取り付け状態						
		作動						
	炭酸ガスボンベ	作動取り付け状態						
		表面損傷						
		ガスの量						
	パッキン	損傷						
	ピン（緑）	損傷						
	手動レバー	損傷・作動						
エアー吸入補充バルブ		亀裂・損傷						

6. 安全のために考えましょう

●救命胴衣を着用しましょう。

ボートに乗船するときは、短時間でも必ず救命胴衣を着用しましょう。
ボートから落水するのは、はるか沖合を航行している場合とは限りません。また、悪天候の時とも限りません。現実に9割近くの事故が近海域での微風時に起こっています。その時、大部分の人が救命胴衣を着用していませんでした。
ボートの責任者は、出航する前に全員が救命胴衣を正しく着用していることを確認しなければなりません。救命胴衣は体にフィットしていなければ、効果を発揮できません。ベルトをすべて調整し、余った部分は折り曲げるなどして、引っかからないように挟み込んでください。正しく着用すれば、動きを妨げることなく体にフィットします。
救命胴衣にはベルト、バックルなどの固定するための装置が取り付けられています。それらは正しく着用するためのものであり、ボートに固定するためではありません。保管時はハンガーなどに吊り下げて、いつでも着用できるように準備しておいてください。

●水面に浮かんだ状態を保つために。

落水時、もしくは落水のおそれが発生した場合には、出来るだけリラックスしてパニックに陥らないことが大切です。余分な体の力を抜いて、頭を後ろにもたれ掛かるようにして救命胴衣に体を預ければ、顔は水面に浮くように作られています。

●低体温防止のために覚えておくべきポイント。

要　点

低体温：長時間冷たい水に浸かっていると、「低体温」として言われる状態を引き起こします。低体温は体の熱が奪われて極度の疲労や意識不明に至るものです。落水者の大部分はこの低体温状態に陥ります。下表には低体温による影響が示されています。

低体温症（ハイポサーミア）による大人の平均生存時間

水　温	疲労又は意識不明	水中での生存可能時間
0℃	15分以下	15分～45分
0℃～5℃	15分～30分	30分～90分
5℃～10℃	30分～60分	1時間～3時間
10℃～15℃	1時間～2時間	1時間～6時間
15℃～20℃	2時間～7時間	2時間～40時間
20℃～25℃	2時間～12時間	3時間～体力が続く限り
25℃以上	体力が続く限り	体力が続く限り

低体温防止のために覚えておくべきポイント

1）必ず、救命胴衣を着用してください。低体温で意識不明に陥っても、体が浮いていれば救助される可能性が高まります。

2）生きようとする意志が頭を覚醒させ、意識が長く保てます。落水しても決してあきらめずに前向きな姿勢で救助を待ってください。

3）救命胴衣は衣服の上、特に冷たい水域ではジャケット、コートなどの上に着用してください。

4）救命胴衣を着用して落水した場合は、出来るだけコンパクトな姿勢を保ち、頭は水の上に出してください。足を椅子に座るときのように上げることで、体温が温存できます。また、出来るだけ動かないでください。体を動かすと体温が急激に奪われます。

5）周りに人がいる場合は、体を寄せ合うことで体温が奪われることが防止できます。

6）周りに体を預けられる浮遊物がある場合は、救命胴衣を傷つけないように注意してよじ登ってください。

7）アルコールは水中での体温を急激に低下させるので、飲酒はしないでください。

● 浮遊中のサメに対するポイント。

1）落水前に怪我をして出血している場合、出血を防止してください。
理由：サメは10km先から血の臭気を感知し近寄ってくるからです。

2）万が一サメが近寄ってきたら、着用衣類すべてを足に結びつけ、サメに対して自分の身長をできる限り大きく見せるようにします。
理由：サメは大変臆病で、自分より大きいものは襲わない習性があります。

3）万が一サメが近寄ってきたら、恐怖心はあると思いますが決して足をばたばたする等泳がないことです。
理由：サメは人間を弱った魚だと思い襲ってくるからです。

4）万が一サメが近寄ってきたら足を水面から出してください。
理由：サメの口は下のほうにあり、えら呼吸するサメにとって水面上にあるものに対しては攻撃態勢を取りにくいからです。

保　証　書

※下記の購入日及び販売店の捺印、販売員のサインの無い場合は保証書の効力はありません。

お買い上げいただきました膨張式救命胴衣について、構成する各部品に材料上あるいは製造上の不具合があり、これを弊社が認めた場合、この保証書にしたがって当該部品を交換または修理することを保証します。

●保証期間

保証期間は購入した日より1年間です。

●保証の適用除外

次に示すものに起因すると判定できる故障または破損の修理は保証いたしません。

①地震、台風、水害などの天災および事故火災。
②仕様の限度を超える使用。
③弊社が認めていない改造、純正部品以外の使用。
④故意または過失による取扱説明書に示す以外の取り扱い。
⑤取扱説明書に示す保管、交換の不備または間違い。
⑥取扱説明書に示す保守整備（メンテナンス）を行わなかった場合。
⑦本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入の無い場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
⑧ボンベ、スプール、パッキン等の消耗品は有料修理となります。

●定期点検

膨張式救命胴衣は人命にかかわるものですから、何時も完全な機能をはたさなくてはなりませんので年一回定期点検（有償）を販売店を通じ製造会社で実施してください。

●保証修理の請求

この保証書は販売店が販売した膨張式救命胴衣に関する下記必要事項を記入捺印することにより有効となります。保証修理をご請求される場合は、当該膨張式救命胴衣と保証書を販売店にお持ちください。

型　　式：	☐ YM-003　☐ YM-005　☐ YM-006　☐ YM-2300		
※お買上げ日：　　年　　月　　日		※製造番号：	
お客様	ご住所	※販売店	住所・氏名（スタンプ可）
	お名前　　　　様		
	電話番号　（　　）		

ご販売店様へ　※印欄は必ず記入してお渡しください。

1. この保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。
2. この商品は持ち込み修理に限らせていただきます。出張修理はいたしません。
3. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
4. 本書に記載いただいた内容は、保証、交換、修理以外には、使用いたしません。

販売元： **株式会社ワイズギア**

〒432-8058　静岡県浜松市南区新橋町1103　TEL. 0570-050814

オープン時間：月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日を除く）　9：00～12：00、13：00～17：30